

宮川総合水系環境整備事業 様式集

- ・ 業務カルテ
- ・ 概要図
- ・ [様式-5] 費用対効果（全体事業）
費用対効果（全体事業・感度分析）
費用対効果（残事業）
費用対効果（残事業・感度分析）
- ・ [様式-6] 事業費の内訳書（全体事業）
事業費の内訳書（残事業）

令和元年10月2日
国土交通省中部地方整備局
三重河川国道事務所

事業名 (簡所名)	宮川総合水系環境整備事業	担当課 担当課長名	水管理・国土保全局河川環境課 高村 裕平	事業 主体	中部地方整備局																															
実施箇所	三重県玉城町、伊勢市																																			
該当基準	再評価実施後一定期間(3年間)が経過している事業																																			
事業諸元	水辺整備事業 1式																																			
事業期間	平成19年度～令和3年度																																			
総事業費 (億円)	約14.8	残事業費(億円)	約0.17																																	
目的・ 必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <p>・宮川、勢田川に残されている自然環境や歴史文化資源を活用し、利用しやすい河川空間を整備することにより、伊勢神宮をはじめとした周辺施設との連携を図り、地域の魅力の向上と活力ある都市空間の形成に寄与することを目的とする。</p> <p>【水辺整備】 (畷田地区)</p> <p>・当該地区は、河川空間管理計画で自然利用ゾーンとして位置付けられており、「人と河川の豊かなふれあいの場」としての利用が求められている。 ・周辺には、宮川堤公園などの親水施設や、「百間バナ」と呼ばれる歴史的治水施設があり、多様な河川空間によりニーズに合わせた利用の拡大が考えられる。 ・玉城町は、河川空間を利用して子どもたちが安全に自然体験や環境学習ができる場の整備を要望し、平成26年に国土交通省「水辺の乗校プロジェクト」に登録申請をした。 ・水辺整備の予定箇所は、洪水を安全に流下させるための治水機能が不十分である。また、高水敷には樹木が繁茂し、安全に水辺にアクセス可能なアプローチがないなど、効果的な利活用が妨げられている。 ・高水敷の安全な利活用を確保するため、国において、高水敷整備、親水護岸、せせらぎ水路など基盤となる整備を実施した。また、玉城町において、芝生広場、駐車場などを整備した。</p> <p>(宮川勢田川地区[完了済])</p> <p>・平成25年の式年遷宮に向けて、伊勢市では、歴史ある街並みや既存の観光スポットを活用し、市街地整備と一体となった水辺整備により、川が都市の賑わいの中心となるような魅力ある水辺の創出を行ってきた。 ・宮川の高水敷には樹木が繁茂し、隣接する公園施設等と連続した利用ができなかった。また、水辺に近づけず、安全な利用が妨げられていた。 ・勢田川の護岸は周辺環境との調和が図られておらず、利用されにくかった。 ・宮川、勢田川において、広い高水敷の整備や既存施設を活用し、散策など利用しやすい水辺空間の整備を実施した。</p> <p><達成すべき目標></p> <p>【水辺整備】</p> <p>・親水護岸整備、高水敷整備などを実施することにより、親水やレクリエーションの場などとして安全に利活用できる水辺空間を形成する。</p> <p><政策体系上の位置付け></p> <p>・政策目標：良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現。 ・施策目標：良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する。</p>																																			
便益の主な根拠	<p>【宮川総合水系環境整備事業】 (畷田地区水辺整備) 【内訳】 水辺整備の効果による便益: 21.5億円 【主な根拠】 支払い意志額: 226円/世帯・月 受益世帯数: 34,763世帯</p> <p>(宮川勢田川水辺整備) 【内訳】 水辺整備の効果による便益: 54.9億円 【完了済】 【主な根拠】 支払い意志額: 259円/世帯・月 受益世帯数: 57,783世帯</p>																																			
事業全体の投資効率性	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">B:総便益(億円)</th> <th colspan="2">基準年度</th> <th colspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">B/C</th> <th rowspan="2">2.4</th> <th rowspan="2">B-C</th> <th rowspan="2">33.5</th> <th rowspan="2">EIRR (%)</th> <th rowspan="2">13.2</th> </tr> <tr> <th>58</th> <th>C:総費用(億円)</th> <th>24.5</th> <th>2.4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残事業の投資効率性</td> <td>0.97</td> <td>C:総費用(億円)</td> <td>0.15</td> <td>B/C</td> <td>6.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										B:総便益(億円)	基準年度		令和元年度		B/C	2.4	B-C	33.5	EIRR (%)	13.2	58	C:総費用(億円)	24.5	2.4	残事業の投資効率性	0.97	C:総費用(億円)	0.15	B/C	6.5					
B:総便益(億円)	基準年度		令和元年度		B/C	2.4	B-C	33.5	EIRR (%)	13.2																										
	58	C:総費用(億円)	24.5	2.4																																
残事業の投資効率性	0.97	C:総費用(億円)	0.15	B/C	6.5																															
感度分析	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="2">残事業(B/C)</th> <th colspan="2">全体事業(B/C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残事業費(+10%~-10%)</td> <td>6.1 ~ 6.9</td> <td>2.4 ~ 2.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>残工期(+10%~-10%)</td> <td>~</td> <td>~</td> <td></td> </tr> <tr> <td>受益世帯数(-10%~+10%)</td> <td>5.8 ~ 7.1</td> <td>2.1 ~ 2.6</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>											残事業(B/C)		全体事業(B/C)		残事業費(+10%~-10%)	6.1 ~ 6.9	2.4 ~ 2.4		残工期(+10%~-10%)	~	~		受益世帯数(-10%~+10%)	5.8 ~ 7.1	2.1 ~ 2.6										
	残事業(B/C)		全体事業(B/C)																																	
	残事業費(+10%~-10%)	6.1 ~ 6.9	2.4 ~ 2.4																																	
	残工期(+10%~-10%)	~	~																																	
受益世帯数(-10%~+10%)	5.8 ~ 7.1	2.1 ~ 2.6																																		
事業の効果等	<p>【水辺整備】 (畷田地区水辺整備)</p> <p>・安全に川に近づけるようになることから、宮川の自然環境にふれあえる場となり、自然を活かした環境教育や自然観察の場としての利用の拡大が期待される。 ・宮川の高水敷を安全・快適に利用できるようになり、スポーツやレクリエーション、地域住民の憩いの場となることが期待される。 ・せせらぎ水路では、メダカやドジョウ等が確認されており、子供たちが水辺や水生生物に親しみ場として活用されることが期待される。</p> <p>(宮川勢田川水辺整備)[完了済]</p> <p>・宮川、勢田川で水辺を安全・快適に利用できるようになり、伊勢神宮など周辺観光地と合わせた利用で利用者が増加した。</p>																																			
社会経済情勢等の変化	<p>・宮川下流部の人口は、近年ほぼ横這いであるが、世帯数は増加している。 ・宮川流域は古くから伊勢神宮と密接に関わっており、伊勢神宮の入込客は、増加傾向である。 ・流域の豊かな自然や歴史文化を活かしたデイキャンプや清掃活動などの行事やその参加者数は、増加傾向である。</p>																																			
事業の進捗状況	<p>【水辺整備】 ・令和元年度末事業費ベースで約99%である。</p>																																			
事業の進捗の見込み	<p>・畷田地区では、整備後の環境や利用についてのモニタリング調査において、水辺の自然を観察する場としての利用が既に確認されており、今後のさらなる活用が期待される。 ・令和元年以降は、せせらぎ水路に生息する魚類等について、継続してモニタリング調査を行う。 以上のことから、事業実施にあたっての支障はない。</p>																																			
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p>・残土処理地を変更し、運搬距離を短縮したことによりコスト縮減を図った。</p>																																			
対応方針	継続																																			
対応方針理由	<p>・地域住民の河川利用に関する需要が見込まれる事業の必要性は高くなっている。 ・今後、効果の発現が見込めることから、宮川総合水系環境整備事業を継続する。</p>																																			
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p><三重県の意見・反映内容></p> <p>・本事業は、宮川の自然を生かした環境教育や自然観察の場および地域住民の憩いの場を創出するための重要な事業です。今後も引き続き、本県と十分調整をいただき、河川の利用状況及び魚類生息状況等のモニタリング結果の情報共有をお願いします。</p>																																			

宮川総合水系環境整備事業 概要図



宮川総合水系環境整備事業（三重河川国道事務所）

▽感度分析（様式5） 目次

Case ① 全体事業

Case ② 全体事業（事業費+10%）

Case ③ 全体事業（事業費-10%）

Case ④ 全体事業（受益世帯数+10%）

Case ⑤ 全体事業（受益世帯数-10%）

~~Case ⑥ 全体事業（残工期+10%）~~ ※残工期が5年未満のため、算出不要

~~Case ⑦ 全体事業（残工期-10%）~~ ※残工期が5年未満のため、算出不要

Case ⑧ 残事業

Case ⑨ 残事業（事業費+10%）

Case ⑩ 残事業（事業費-10%）

Case ⑪ 残事業（受益世帯数+10%）

Case ⑫ 残事業（受益世帯数-10%）

~~Case ⑬ 残事業（残工期+10%）~~ ※残工期が5年未満のため、算出不要

~~Case ⑭ 残事業（残工期-10%）~~ ※残工期が5年未満のため、算出不要

＜宮川総合水系環境整備事業＞
(昼田地区水辺整備事業：再評価)

宮川総合水系環境整備事業（三重河川国道事務所）

昼田地区水辺整備事業

▽感度分析（様式5） 目次

Case ① 全体事業

Case ② 全体事業（事業費+10%）

Case ③ 全体事業（事業費-10%）

Case ④ 全体事業（受益世帯数+10%）

Case ⑤ 全体事業（受益世帯数-10%）

~~Case ⑥ 全体事業（残工期+10%）~~ ※残工期が5年未満のため、算出不要

~~Case ⑦ 全体事業（残工期-10%）~~ ※残工期が5年未満のため、算出不要

Case ⑧ 残事業

Case ⑨ 残事業（事業費+10%）

Case ⑩ 残事業（事業費-10%）

Case ⑪ 残事業（受益世帯数+10%）

Case ⑫ 残事業（受益世帯数-10%）

~~Case ⑬ 残事業（残工期+10%）~~ ※残工期が5年未満のため、算出不要

~~Case ⑭ 残事業（残工期-10%）~~ ※残工期が5年未満のため、算出不要

Case ⑧ 残事業

(様式-5)

【費用便益算定シート・畷田地区水辺整備】

基準(評価)年度	2019(R1)
共用年度	2019(R1)
社会的割引率	4%

(単位:百万円)

年度	デフ レタ ー	割引 率	便益: B						費用: C										
			便益①		残存価値②		計 (①+②)	建設費③			維持管理費④			計③+④					
t	西暦		便益	実買価格	現在価値	実買価格		現在価値	費用	実買価格	現在価値	費用	実買価格	現在価値	費用	実買価格	現在価値		
整備期間	-6	2013	1.065	1.265															
	-5	2014	1.031	1.217															
	-4	2015	1.023	1.170															
	-3	2016	1.023	1.125															
	-2	2017	1.000	1.082															
	-1	2018	1.000	1.040															
	0	2019	1.000	1.000															
	1	2020	1.000	0.962					0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9		
	2	2021	1.000	0.925	4.7	4.7	4.3		15.2	15.2	14.1	0.0	0.0	0.0	15.2	15.2	14.1		
	3	2022	1.000	0.889	4.7	4.7	4.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	4	2023	1.000	0.855	4.7	4.7	4.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	5	2024	1.000	0.822	4.7	4.7	3.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	6	2025	1.000	0.790	4.7	4.7	3.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	7	2026	1.000	0.760	4.7	4.7	3.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	8	2027	1.000	0.731	4.7	4.7	3.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	9	2028	1.000	0.703	4.7	4.7	3.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	10	2029	1.000	0.676	4.7	4.7	3.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	11	2030	1.000	0.650	4.7	4.7	3.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	12	2031	1.000	0.625	4.7	4.7	2.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	13	2032	1.000	0.601	4.7	4.7	2.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	14	2033	1.000	0.577	4.7	4.7	2.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	15	2034	1.000	0.555	4.7	4.7	2.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	16	2035	1.000	0.534	4.7	4.7	2.5					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	17	2036	1.000	0.513	4.7	4.7	2.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	18	2037	1.000	0.494	4.7	4.7	2.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	19	2038	1.000	0.475	4.7	4.7	2.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	20	2039	1.000	0.456	4.7	4.7	2.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	21	2040	1.000	0.439	4.7	4.7	2.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	22	2041	1.000	0.422	4.7	4.7	2.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	23	2042	1.000	0.406	4.7	4.7	1.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	24	2043	1.000	0.390	4.7	4.7	1.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	25	2044	1.000	0.375	4.7	4.7	1.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	26	2045	1.000	0.361	4.7	4.7	1.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	27	2046	1.000	0.347	4.7	4.7	1.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	28	2047	1.000	0.333	4.7	4.7	1.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	29	2048	1.000	0.321	4.7	4.7	1.5					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	30	2049	1.000	0.308	4.7	4.7	1.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	31	2050	1.000	0.296	4.7	4.7	1.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	32	2051	1.000	0.285	4.7	4.7	1.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	33	2052	1.000	0.274	4.7	4.7	1.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	34	2053	1.000	0.264	4.7	4.7	1.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	35	2054	1.000	0.253	4.7	4.7	1.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	36	2055	1.000	0.244	4.7	4.7	1.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	37	2056	1.000	0.234	4.7	4.7	1.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	38	2057	1.000	0.225	4.7	4.7	1.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	39	2058	1.000	0.217	4.7	4.7	1.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	40	2059	1.000	0.208	4.7	4.7	1.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	41	2060	1.000	0.200	4.7	4.7	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	42	2061	1.000	0.193	4.7	4.7	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	43	2062	1.000	0.185	4.7	4.7	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	44	2063	1.000	0.178	4.7	4.7	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	45	2064	1.000	0.171	4.7	4.7	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	46	2065	1.000	0.165	4.7	4.7	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	47	2066	1.000	0.158	4.7	4.7	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	48	2067	1.000	0.152	4.7	4.7	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	49	2068	1.000	0.146	4.7	4.7	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	50	2069	1.000	0.141	4.7	4.7	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	51	2070	1.000	0.135	4.7	4.7	0.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	52	2071	1.000	0.130	4.7	4.7	0.6	0.0	0.0	0.6		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
合計					238.4	239.7	97.4	0.0	0.0	97.4=B	16.1	16.1	15.0	0.0	0.0	0.0	16.1	16.1	15.0=C

費用便益比		
総便益(億円)	B	0.97
総費用(億円)	C	0.15
費用便益比	B/C	6.5
純現在価値(億円)	B-C	0.8
経済的内部収益率		39.7%

Case ⑩ 残事業（事業費-10%）

【費用便益算定シート・畷田地区水辺整備】

（様式-5）

基準（評価）年度	2019(R1)
共用年度	2019(R1)
社会的割引率	4%

（単位：百万円）

年度	デフ レータ	割引 率	便益：B						費用：C										
			便益①		残存価値②		計 (①+②)	建設費③			維持管理費④			計③+④					
			便益	実買価格	現在価値	実買価格		現在価値	費用	実買価格	現在価値	費用	実買価格	現在価値	費用	実買価格	現在価値		
t	西暦																		
整備期間	-6	2013	1.065	1.265															
	-5	2014	1.031	1.217															
	-4	2015	1.023	1.170															
	-3	2016	1.023	1.125															
	-2	2017	1.000	1.082															
	-1	2018	1.000	1.040															
	0	2019	1.000	1.000															
	1	2020	1.000	0.962					0.8	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	0.8		
	2	2021	1.000	0.925	4.7	4.7	4.3		13.7	13.7	12.7	0.0	0.0	0.0	13.7	13.7	12.7		
	3	2022	1.000	0.889	4.7	4.7	4.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	4	2023	1.000	0.855	4.7	4.7	4.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	5	2024	1.000	0.822	4.7	4.7	3.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	6	2025	1.000	0.790	4.7	4.7	3.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	7	2026	1.000	0.760	4.7	4.7	3.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	8	2027	1.000	0.731	4.7	4.7	3.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	9	2028	1.000	0.703	4.7	4.7	3.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	10	2029	1.000	0.676	4.7	4.7	3.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	11	2030	1.000	0.650	4.7	4.7	3.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	12	2031	1.000	0.625	4.7	4.7	2.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	13	2032	1.000	0.601	4.7	4.7	2.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	14	2033	1.000	0.577	4.7	4.7	2.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	15	2034	1.000	0.555	4.7	4.7	2.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	16	2035	1.000	0.534	4.7	4.7	2.5					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	17	2036	1.000	0.513	4.7	4.7	2.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	18	2037	1.000	0.494	4.7	4.7	2.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	19	2038	1.000	0.475	4.7	4.7	2.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	20	2039	1.000	0.456	4.7	4.7	2.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	21	2040	1.000	0.439	4.7	4.7	2.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	22	2041	1.000	0.422	4.7	4.7	2.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	23	2042	1.000	0.406	4.7	4.7	1.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	24	2043	1.000	0.390	4.7	4.7	1.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	25	2044	1.000	0.375	4.7	4.7	1.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	26	2045	1.000	0.361	4.7	4.7	1.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	27	2046	1.000	0.347	4.7	4.7	1.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	28	2047	1.000	0.333	4.7	4.7	1.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	29	2048	1.000	0.321	4.7	4.7	1.5					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	30	2049	1.000	0.308	4.7	4.7	1.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	31	2050	1.000	0.296	4.7	4.7	1.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	32	2051	1.000	0.285	4.7	4.7	1.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	33	2052	1.000	0.274	4.7	4.7	1.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	34	2053	1.000	0.264	4.7	4.7	1.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	35	2054	1.000	0.253	4.7	4.7	1.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	36	2055	1.000	0.244	4.7	4.7	1.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	37	2056	1.000	0.234	4.7	4.7	1.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	38	2057	1.000	0.225	4.7	4.7	1.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	39	2058	1.000	0.217	4.7	4.7	1.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	40	2059	1.000	0.208	4.7	4.7	1.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	41	2060	1.000	0.200	4.7	4.7	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	42	2061	1.000	0.193	4.7	4.7	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	43	2062	1.000	0.185	4.7	4.7	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	44	2063	1.000	0.178	4.7	4.7	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	45	2064	1.000	0.171	4.7	4.7	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	46	2065	1.000	0.165	4.7	4.7	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	47	2066	1.000	0.158	4.7	4.7	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	48	2067	1.000	0.152	4.7	4.7	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	49	2068	1.000	0.146	4.7	4.7	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	50	2069	1.000	0.141	4.7	4.7	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	51	2070	1.000	0.135	4.7	4.7	0.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	52	2071	1.000	0.130	4.7	4.7	0.6	0.0	0.0	0.6		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
合計					238.4	239.7	97.4	0.0	0.0	97.4=B	14.5	14.5	13.5	0.0	0.0	0.0	14.5	14.5	13.5=C

費用便益比	
総便益（億円）	B 0.97
総費用（億円）	C 0.14
費用便益比	B/C 6.9
純現在価値（億円）	B-C 0.8
経済的内部収益率	45.9%

Case 12 残事業（世帯数-10%）

【費用便益算定シート・畷田地区水辺整備】	
基準（評価）年度	2019(R1)
共用年度	2019(R1)
社会的割引率	4%

（様式－5）

（単位：百万円）

年度	デフレ率		便益：B						費用：C											
	t	西暦	割引率	便益①		残存価値②		計 (①+②)	建設費③			維持管理費④			計③+④					
				便益	実質価格	現在価値	実質価格		現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値		
整備期間	-6	2013	1.065	1.265																
	-5	2014	1.031	1.217																
	-4	2015	1.023	1.170																
	-3	2016	1.023	1.125																
	-2	2017	1.000	1.082																
	-1	2018	1.000	1.040																
	0	2019	1.000	1.000																
	1	2020	1.000	0.962						0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9		
	2	2021	1.000	0.925	4.2	4.2	3.9			15.2	15.2	14.1	0.0	0.0	0.0	15.2	15.2	14.1		
	3	2022	1.000	0.889	4.2	4.2	3.7						0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
施設の 完成後 の 評価 期間 (50 年	4	2023	1.000	0.855	4.2	4.2	3.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	5	2024	1.000	0.822	4.2	4.2	3.5					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	6	2025	1.000	0.790	4.2	4.2	3.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	7	2026	1.000	0.760	4.2	4.2	3.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	8	2027	1.000	0.731	4.2	4.2	3.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	9	2028	1.000	0.703	4.2	4.2	3.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	10	2029	1.000	0.676	4.2	4.2	2.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	11	2030	1.000	0.650	4.2	4.2	2.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	12	2031	1.000	0.625	4.2	4.2	2.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	13	2032	1.000	0.601	4.2	4.2	2.5					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	14	2033	1.000	0.577	4.2	4.2	2.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	15	2034	1.000	0.555	4.2	4.2	2.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	16	2035	1.000	0.534	4.2	4.2	2.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	17	2036	1.000	0.513	4.2	4.2	2.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	18	2037	1.000	0.494	4.2	4.2	2.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	19	2038	1.000	0.475	4.2	4.2	2.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	20	2039	1.000	0.456	4.2	4.2	1.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	21	2040	1.000	0.439	4.2	4.2	1.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	22	2041	1.000	0.422	4.2	4.2	1.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	23	2042	1.000	0.406	4.2	4.2	1.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	24	2043	1.000	0.390	4.2	4.2	1.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	25	2044	1.000	0.375	4.2	4.2	1.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	26	2045	1.000	0.361	4.2	4.2	1.5					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	27	2046	1.000	0.347	4.2	4.2	1.5					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	28	2047	1.000	0.333	4.2	4.2	1.4					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	29	2048	1.000	0.321	4.2	4.2	1.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	30	2049	1.000	0.308	4.2	4.2	1.3					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	31	2050	1.000	0.296	4.2	4.2	1.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	32	2051	1.000	0.285	4.2	4.2	1.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	33	2052	1.000	0.274	4.2	4.2	1.2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	34	2053	1.000	0.264	4.2	4.2	1.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	35	2054	1.000	0.253	4.2	4.2	1.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	36	2055	1.000	0.244	4.2	4.2	1.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	37	2056	1.000	0.234	4.2	4.2	1.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	38	2057	1.000	0.225	4.2	4.2	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	39	2058	1.000	0.217	4.2	4.2	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	40	2059	1.000	0.208	4.2	4.2	0.9					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	41	2060	1.000	0.200	4.2	4.2	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	42	2061	1.000	0.193	4.2	4.2	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	43	2062	1.000	0.185	4.2	4.2	0.8					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	44	2063	1.000	0.178	4.2	4.2	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	45	2064	1.000	0.171	4.2	4.2	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	46	2065	1.000	0.165	4.2	4.2	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	47	2066	1.000	0.158	4.2	4.2	0.7					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	48	2067	1.000	0.152	4.2	4.2	0.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	49	2068	1.000	0.146	4.2	4.2	0.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	50	2069	1.000	0.141	4.2	4.2	0.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	51	2070	1.000	0.135	4.2	4.2	0.6					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	52	2071	1.000	0.130	4.2	4.2	0.5	0.0	0.0	0.5			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	合計					214.6	214.2	87.1	0.0	0.0	87.1=B	16.1	16.1	15.0	0.0	0.0	0.0	16.1	16.1	15.0=C

費用便益比		
総便益（億円）	B	0.87
総費用（億円）	C	0.15
費用便益比	B/C	5.8
純現在価値（億円）	B-C	0.7
経済的内部収益率		34.5%

事業費の内訳書

河川事業

事業名 昼田地区水辺整備(全体事業)

評価年度 R1 再評価

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考	
工事費			式	1	215.9		
	本工事費			式	1	215.9	
		高水敷整正		m ²	85,400	36.0	
		親水護岸		m	250	125.0	
		樹木伐採		m ²	5,400	20.0	
		管理用通路		m ²	5,400	34.9	
	付帯工事費						
	用地費及補償費						
間接経費			式	1	38.4		
工事諸費			式	1	56.1		
自治体費用			式		22.9		
事業費 計			式	1	333.3		
維持管理費			式	1	309.0		

事業費の内訳書

河川事業

事業名	昼田地区水辺整備(残事業)
-----	---------------

評価年度	R1	再評価
------	----	-----

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考	
工事費			式	1	0.0		
	本工事費			式	1	0.0	
		高水敷整正	m ²				
		親水護岸	m				
		樹木伐採	m ²				
		管理用通路	m ²				
	付帯工事費						
	用地費及補償費						
間接経費			式	1	4.9		
工事諸費			式	1	11.6		
自治体費用			式		0.0		
事業費 計			式	1	16.5		
維持管理費			式	1	0.0		

事業費の内訳書

河川事業

事業名 宮川総合水系環境整備事業(全体事業)

評価年度 R1 再評価

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
工事費			式	1	1099.8	
	本工事費(昼田地区)		式	1	215.9	
		高水敷整正	m ²	85,400	36	
		親水護岸	m	250	125	
		樹木伐採	m ²	5,400	20	
		管理用通路	m ²	5,400	34.9	
	本工事費(宮川勢田川地区)		式	1	883.9	
		勢田川地区				
		親水護岸	m	2,280	276.9	
		川端地区				
		高水敷整正	m ²	235,700	40.7	
		緩傾斜堤防	m	876	171.4	
		低水護岸	m	920	236.4	
		御園地区				
		管理用通路	式	1	158.5	
	付帯工事費					
	用地費及補償費					
間接経費			式	1	122.6	
工事諸費			式	1	229.9	
自治体費用			式	1	22.9	
事業費 計			式	1	1,475.1	
維持管理費			式	1	651.0	

1.便益を計測する一般手法

環境整備の便益計測手法としては、旅行費用法(TCM)、代替法、仮想市場評価法(CVM)がある。
 本事業の便益を計測する手法としてはCVMが想定される。

手法	内容	各手法の一般的な特徴		評価	
		長所	短所	評価対象事業を踏まえた適用可能性	妥当性
旅行費用法 (TCM)	施設を訪れる人が支出する交通費や費やす時間をもとに便益を計測する方法	<ul style="list-style-type: none"> 客観的なデータ(来訪者数、旅行費用など)を用いて分析を行うため、分析方法や結果の妥当性を確認しやすい。 レクリエーション行動に基づく分析手法であるため、観光地などのレクリエーションに関する価値の分析に適する。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用実態に関するデータ(事業がある場合とない場合の出発地別の来訪者数等)の入手が困難な場合がある。 レクリエーション行動に結びつかない価値(歴史的・文化的に貴重な施設の存在価値など)の計測は困難。 複数の目的地を有する旅行者や長期滞在者の扱い、代替施設の設定などの分析が課題。 	利用推進であり、利用価値を主とするが、せせらぎ水路における魚類の生息等、生物生息環境の保全効果も見られ、これらの効果を評価することができない。	×
代替法	評価対象とする事業と同様の便益をもたらす他の市場財の価格をもとに便益を計測する方法	<ul style="list-style-type: none"> 計算方法が理解しやすく、比較的簡易に分析が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な代替市場財が設定できない場合は適用できない。 	同等の機能を持つ代替財を設定することができない。	×
仮想的市場評価法 (CVM)	アンケート調査により事業の効果に対する回答者の支払意思額を尋ね、これをもとに便益を計測する方法	<ul style="list-style-type: none"> 適用範囲が広く、歴史的・文化的に貴重な施設の存在価値をはじめとして、原則的にあらゆる効果を対象にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにおいて価格を直接的に質問するため、適切な手順・アンケート内容としないとバイアスが発生し、推計精度が低下する。 仮想的な状況に対する回答であるため、結果の妥当性の確認が難しい。 回答者の予算に制約があることを認識してもらう必要がある。 負の支払意思額を計測することができない。 	本事業の主効果である利用しやすい河川空間の整備は、利用価値を主とする。また、周遊性が事業特性の1つとなっていることから、様々な事例に適用可能で適用事例も多い手法であることから、便益算出に適用する。	○

2.CVM調査チェックリスト

手 順	内 容	最低限確認すべき事項 (チェックポイント)	check	備 考
①CVM適用可否の検討	CVM適用可否の検討	複数の便益計測手法を比較検討した上で、CVMの適用が妥当だと判断したか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・非市場財の主な便益計測手法である、旅行費用法、代替法、仮想的市場評価法について、適用の可否を比較検討。 ・対象事業の種類が、利用価値であるが、周遊性を有することから、CVMの適用が妥当であると判断（前ページ参照）。
②調査方法の設定	調査範囲の設定	既存の調査事例やプレテストの結果等をもとに便益の集計範囲を予想した上で、その範囲を含むように調査範囲を設定したか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・事業箇所への来訪頻度を踏まえ、事業箇所から5kmの範囲を対象範囲として設定した。
	調査方法の設定	複数の調査方法を比較検討した上で、母集団に対する偏りが少ない調査方法を設定したか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送調査法、面接(訪問)調査法、インターネット調査法で比較。 ・各手法の長所、短所及び対象河川の周辺地域の特性を踏まえ、郵送調査により調査を実施した。
③調査票の作成	金額を尋ねる方法の設定	受入補償額ではなく支払意思額を尋ねたか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・支払形態については、「支払意思額」を尋ねた。
	支払手段の設定	複数の支払手段を比較検討した上で、回答者にとって分かりやすくバイアスの少ない支払手段を設定したか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「税金」や「寄付金」と比べて先入観が小さく、抵抗感の少ない「負担金」により支払う方法を問う設問とした。
	回答方式の設定	回答方式として二項選択方式を用いたか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・支払いの意志の有無を「はい」、「いいえ」の2つの選択肢から回答してもらい二項選択を、金額を変えて3回以上問う「多段階二項選択方式」とした。
	仮想的状況の設定	<p>事業を実施する場合としない場合（あるいは継続する場合と中止する場合）の両方の状況を示したか。</p> <p>事業の効果を過大に見せたり、悪化することが考えられる要因を過小に見せたりせずに仮想的状況を設定したか。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート用紙の他に事業の目的や概要について説明資料を添付。整備前後の両方の状況をイメージ図や写真で示し、整備されない状況、整備された状況がわかりやすくなるよう工夫した。 ・アンケート用紙の他に事業の目的や概要について説明資料を添付。整備前後の両方の状況をイメージ図や写真で示し、事業効果が過大過小とならないよう工夫した。
④プレテストの実施	プレテストの実施または既存事例の確認	プレテストまたは既存事例の確認を行い、本調査実施前に調査票の分かりやすさ、支払意思額の回答の幅を確認したか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査実施前に、既存の事例の確認を行い、帳票のわかりやすさや支払い意思額の幅について分析した。 ・支払意思額の幅は、既往事例結果を踏まえ設定した。
⑤本調査の実施	標本数の確保	分析に必要な標本数を確保したか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「河川に係る環境整備の経済評価の手引き【別冊】」（平成22年3月河川局河川環境課）に示されたWTP算出に必要なとされる最低でも50票以上の回収数となる303票を確保した。
⑥便益の推計	支払意思額の設定	異常回答の排除を行い、過大にならないように支払意思額を推定したか。特に支払意思額の代表値として平均値を用いる場合は、最大支払提示額で裾切りを行ったか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・抵抗回答や理解不足の回答は除外して平均WTPを算出した。 ・平均WTPの算出にあたっては、モデルにより賛同率曲線を推定するパラメトリック法を使用し、最大支払提示額で裾切りを行った。
	集計範囲の設定	集計範囲の設定根拠を明らかにし、過大にならないように配慮して便益を推計したか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・本アンケート調査結果から、居住地と利用頻度の関係を整理、利用者が比較的多い範囲として、集計範囲の妥当性を検証した。

3.個別事業評価(便益集計範囲 昼田地区水辺整備)

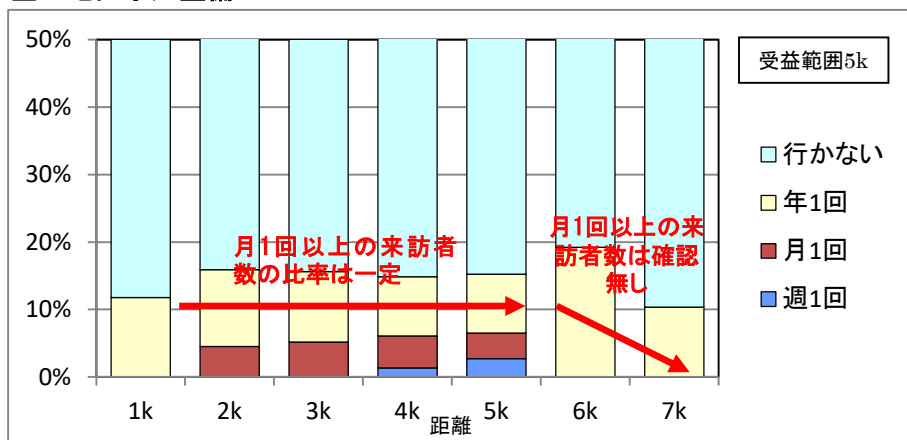
■ 河川への関心が高い河川利用者だけではなく、一般の市民を対象としており、本調査において想定される集計範囲より広範囲にアンケートを実施（配布数1,740票）。

■ 当該地区への来訪頻度の変化点である5kmを集計範囲に設定



■ 『地域の住民』の便益集計世帯は34,763世帯

昼田地区水辺整備



来訪頻度の距離別構成



CVMアンケートの対象区域

4. 支払意思額: WTP

『地域の住民』のWTP

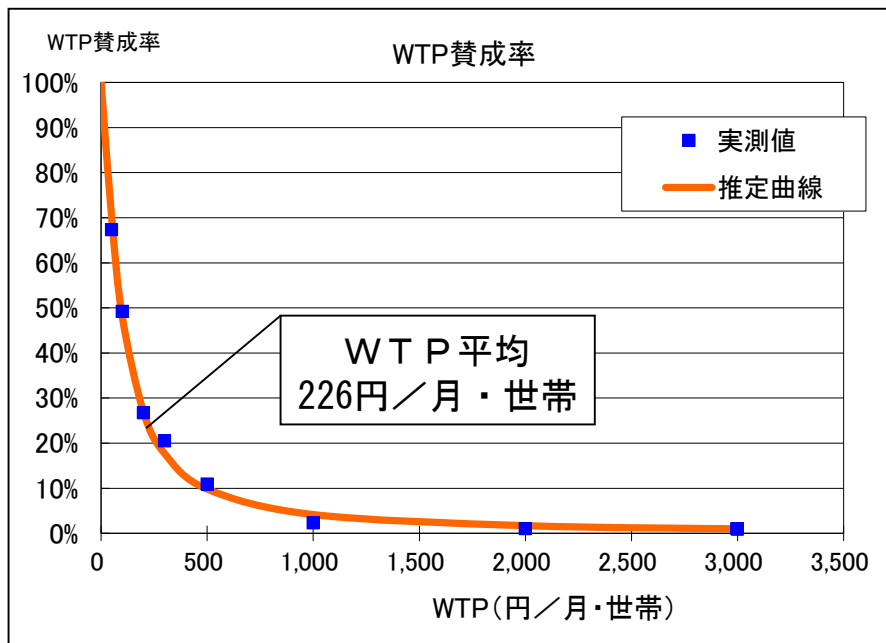
226円/月/世帯



『地域の住民』の年便益

年便益 = 226円 × 12ヶ月 × 34,763世帯
= 0.94億円/年

WTP算定結果



世帯数の集計範囲



市町村名	世帯数
伊勢市	34,763世帯
玉城町	
度会町	

宮川の河川環境整備に関するアンケート調査のご協力をお願い

平成30年2月
国土交通省中部地方整備局
三重河川国道事務所

アンケートにご協力いただく皆様方へ

時下、皆さま方におかれましてはますますご健勝のことと存じます。

国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所では、玉城町と連携し、平成30年度の完成を目指し、玉城町屋田地区の宮川河川敷において、地域の方々が河川空間を安全で利用しやすく、川とふれあえるような取り組みを進めていきます。

本アンケート調査は、

玉城町屋田地区で行われる取り組みの効果を金額に置き換えて評価することを目的として実施するものであり、本取り組みによる効果が及ぶ範囲として期待される周辺地域にお住まいの皆様を対象としております。

本アンケートの目的をご理解いただき、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

ご回答にあたって

- ・ アンケートは、あなたの世帯の中で主な収入を得ておられる方、またはそれに準ずる方（主にその配偶者）をご記入下さい。
- ・ この調査票にご回答いただいた内容は全て統計的に処理しますので、**個人情報および個々の数値やご意見が公表されることは決してありません。**また、本調査の目的以外に使用することも決してありません。
- ・ ご記入いただきましたら、回答用紙を同封の返信用封筒に入れて、**3月6日(火)まで**にお近くの郵便ポストにご投函下さい（切手は不要です）。

アンケート調査についてのお問い合わせ

アンケートについてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

■調査主体

国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 調査課
TEL 059-229-2216 (9:00~17:00; 土曜・休祝日を除く)
FAX 059-229-2257

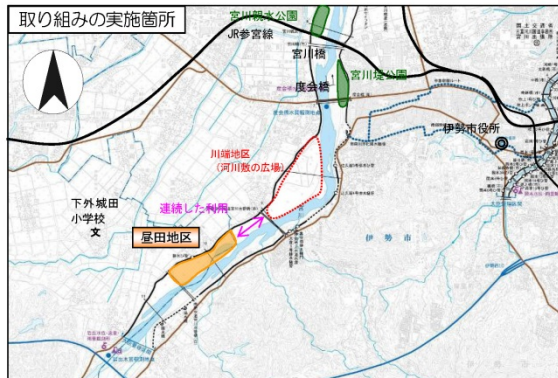
(2) 調査アンケート票 2/5

(アンケート回答用紙)

玉城町屋田地区の宮川左岸河川敷における利用状況や取り組みについてお尋ねします。
説明資料を参考にお答え下さい。

問1. あなたは、玉城町屋田地区の宮川左岸河川敷で、別添の説明資料に示すような取り組みが行われていることをご存じですか。あてはまる番号を1つ、○で囲んで下さい。

- 1) 知っている
2) 知らなかった



問2. あなたは、現在、玉城町屋田地区の宮川左岸河川敷(上の地図、橙着色箇所)にどのくらい訪れますか。また、説明資料に示したような取り組みが行われた後、どれくらい訪れたいと思いますか。あてはまる番号を1つ、○で囲んで下さい。

また、「週1回以上」「月1回以上」「年1回以上」訪れるとお答えの方は、①その回数と②同行する人数、③使用する交通機関と片道所要時間、④目的をあわせてお答え下さい。また、整備する箇所を訪れる際に他に立ち寄る場所があれば、⑤その箇所数と主な場所をお答え下さい。

(回答欄は次ページにあります)

	取り組み前 (現在)	取り組み後 (将来)
① 来訪する頻度 ※回数は、選択肢に応じた回数をお答え下さい。	1) 週1回以上で <input type="text"/> 回くらい 2) 月1回以上で <input type="text"/> 回くらい 3) 年1回以上で <input type="text"/> 回くらい →【下記②～⑤の設問へ】 4) 行かない →【問3へ】	1) 週1回以上で <input type="text"/> 回くらい 2) 月1回以上で <input type="text"/> 回くらい 3) 年1回以上で <input type="text"/> 回くらい →【下記②～⑤の設問へ】 4) 行かない →【問3へ】
② 同行する人数 (自分も含めて)	1) 大人: <input type="text"/> 人 2) 子供: <input type="text"/> 人	1) 大人: <input type="text"/> 人 2) 子供: <input type="text"/> 人
③ 交通機関、時間 (片道)	1) 車、バイク 2) 電車、バス 3) 自転車 4) 徒歩 で片道 <input type="text"/> 分くらい	1) 車、バイク 2) 電車、バス 3) 自転車 4) 徒歩 で片道 <input type="text"/> 分くらい
④ 目的 (いくつでも回答可)	1) 散歩、ジョギング等 2) スポーツ 3) 自然観察・環境学習 4) 釣り 5) 水遊び・レクリエーション 6) イベント参加 7) 通勤・通学などの通り道 8) 仕事 9) その他 ()	1) 散歩、ジョギング等 2) スポーツ 3) 自然観察・環境学習 4) 釣り 5) 水遊び・レクリエーション 6) イベント参加 7) 通勤・通学などの通り道 8) 仕事 9) その他 ()
⑤ 他に立ち寄る場所 (河川周辺でなくても可)	1) 他には立ち寄らない 2) 他にも立ち寄る <input type="text"/> 箇所くらい 主な場所 ()	1) 他に立ち寄りたくない場所はない 2) 他にも立ち寄りたくない <input type="text"/> 箇所くらい 主な場所 ()

(2) 調査アンケート票 3/5

ここからは仮定の質問です。説明文及び説明資料をよくお読みになったうえでお答えください。

玉城町昼田地区の宮川左岸河川敷で行われる、河川空間を安全で利用しやすく、川とふれあえる取り組みは、実際には税金によって行われますが、ここでは取り組みの効果を金額に置き換えて評価するため、仮に『**取り組みが税金ではなく、各世帯から負担金を集めて行われる**』という状況を想定して回答してください。(注：取り組みの効果を評価するための仮定であり、実際にこのような仕組みが考えられているわけではありません。)

取り組みなし	取り組みあり
<p>・河川空間を安全で利用しやすく、川とふれあえる取り組みが行われず、樹木が繁茂し河川敷の利用ができないままで、川への近づきやすさや利用のしやすさが改善されません。</p> 	<p>・河川空間を安全で利用しやすく、川とふれあえる取り組みが行われ、広場やせせらぎ水路など川へ近づきやすく、利用しやすい環境が形成されます。</p> 

問3. 次の(1)から(8)に、取り組みありの負担金の額を具体的に示します。あなたはそれぞれについて、賛成・反対のどちらかをお考え頂き、**望ましいと思う方の番号を1つ、○で囲んで下さい。**なお、負担金は、**あなたの世帯が今の地域にお住まいの間、負担し続けることになり、負担金の分だけあなたの世帯が使うことができるお金が減ることを、十分、念頭においてお答えください。**また、負担金は、この取り組みと維持管理のためだけに使われるものとし、その他の目的にはいっさい使われないものとします。

(1)世帯あたり**毎月 50 円 (年間あたり 600 円)**の負担が必要となりますが、この取り組みの実施に賛成ですか？

1) 反対 2) 賛成

(2)世帯あたり**毎月 100 円 (年間あたり 1,200 円)**の負担が必要となりますが、この取り組みの実施に賛成ですか？

1) 反対 2) 賛成

(3)世帯あたり**毎月 200 円 (年間あたり 2,400 円)**の負担が必要となりますが、この取り組みの実施に賛成ですか？

1) 反対 2) 賛成

(4)世帯あたり**毎月 300 円 (年間あたり 3,600 円)**の負担が必要となりますが、この取り組みの実施に賛成ですか？

1) 反対 2) 賛成

(5)世帯あたり**毎月 500 円 (年間あたり 6,000 円)**の負担が必要となりますが、この取り組みの実施に賛成ですか？

1) 反対 2) 賛成

(6)世帯あたり**毎月 1,000 円 (年間あたり 12,000 円)**の負担が必要となりますが、この取り組みの実施に賛成ですか？

1) 反対 2) 賛成

(7)世帯あたり**毎月 2,000 円 (年間あたり 24,000 円)**の負担が必要となりますが、この取り組みの実施に賛成ですか？

1) 反対 2) 賛成

(8)世帯あたり**毎月 3,000 円 (年間あたり 36,000 円)**の負担が必要となりますが、この取り組みの実施に賛成ですか？

1) 反対 2) 賛成

問4. **問3の(1)で「反対」とお答えの方**にお伺いします。その理由は何ですか。**もっともあてはまる番号を1つ、○で囲んで下さい。**

- 1) 取り組みは必要だと思うが、負担金を支払う価値まではないと思うから
 2) 取り組みは必要ないと思うから
 3) 取り組みに対し世帯から負担金を集めるという仕組みに反対だから
 4) これだけの情報では判断できないから
 5) その他(具体的にお答え下さい)

(2) 調査アンケート票 4/5

問5. 問3で1度でも「賛成」とお答えの方にお伺いします。その理由は何ですか。もっともあてはまる理由となった番号を1つ、○で囲んで下さい。

- 1) 散策やジョギングなどの場として利用できるようになるから
- 2) 河川敷でスポーツ等ができるようになるから
- 3) 川や水辺で遊んだり、釣りを楽しめるようになるから
- 4) 河川敷や水際へ安全に下りられるようになるから
- 5) 生物観察などの環境学習の場となるから
- 6) 景観がよくなるから
- 7) 洪水の心配がなくなるから
- 8) 河川的环境が良くなること自体がいいことだから
- 9) 他の人や将来の世代にとっていいことだから
- 10) 他の世帯も支払うのであれば仕方がないと思うから
- 11) その他（具体的にお答え下さい） [_____]

これで、仮定に関する質問は終わりです。
引き続き、残る質問についてご回答ください。

問6. あなた自身についてお尋ねします。

(1) あなたの性別について、あてはまる番号を1つ、○で囲んで下さい。

- 1) 男性 2) 女性

(2) あなたの年齢について、あてはまる番号を1つ、○で囲んで下さい。

- 1) 20代 2) 30代 3) 40代 4) 50代
5) 60代 6) 70代以上

(3) あなたのお住まいの郵便番号をご記入ください。

□□□□ — □□□□□□

(4) あなた、またはあなたの世帯で主に収入を得ておられる方のご職業は何ですか。あてはまる番号を1つ、○で囲んで下さい。

- 1) 自営・農家 2) 給与所得者（会社員、公務員等）
3) 会社・団体役員 4) パート・アルバイト
5) 年金生活者 6) 学生
7) その他（具体的にお答え下さい） _____

問7. 今後の河川的环境整備のあり方についてご意見がございましたらご自由にお書きください。

アンケートは以上です。

なお、繰り返しになりますが、問3はあくまでも仮定の質問であり、この調査の回答結果をもとにあなたの世帯から実際に負担金が徴収されることは決してございません。

ご協力、ありがとうございました。

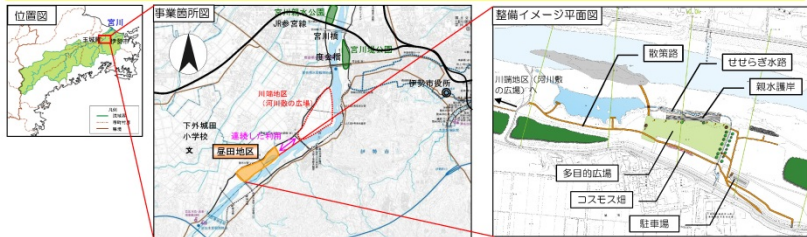
この用紙を返信用封筒に入れ、3月6日（火）までに近くの郵便ポストにご投函願います。

宮川における河川環境整備について
～玉城町の宮川河川敷における安全で利用しやすい川とふれあえる取り組み～

説明資料

●概要

玉城町屋田地区の宮川河川敷において、地域の人々が河川空間を安全で利用しやすく、川とふれあえるような施設（河川敷の広場、水辺に近づきやすい護岸など）を整備します。



取り組みの内容

●河川敷の広場などの整備

広い河川敷に、多目的広場などを整備します。これにより、スポーツやレクリエーションの場として利用ができるようになります。

●水辺に近づける階段や坂路、せせらぎ水路の整備

水辺に安全に近づけるよう、階段や坂路、せせらぎ水路を整備します。これにより、安心して水辺に近づけるようになります。

●散策路の整備

川に沿って移動しやすいように、散策路を整備します。これにより、下流の拠点（川端地区：河川敷の広場）と連続した利用ができるようになります。



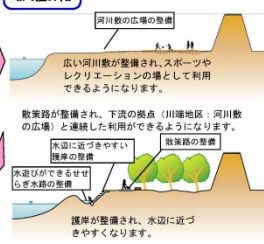
取り組み前

取り組み前



樹木や草が繁茂し、河川敷を利用できません。

取り組み後



護岸が整備され、水辺に近づきやすくなります。



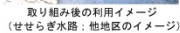
取り組み後（イメージ図）



水辺に近づきやすい護岸



取り組み後の利用イメージ（河川敷の広場：他河川の事例）



取り組み後の利用イメージ（せせらぎ水路：他地区のイメージ）

取り組みにより期待される効果

- ・宮川で水際を安全・快適に利用できるようになり、地域住民の憩いの場や環境学習の場として利用しやすくなるのが期待されます。
- ・散策やサイクリングとして、下流の拠点（川端地区：河川敷の広場）と連続した利用ができるようになり、さらなる利用の活性化が期待されます。



川端地区の河川敷広場の利用



屋田地区での水辺利用の例（水生生物調査：H28.8実施）

